

学生記者になりませんか？

『HAKUMON Chuo』は中大学生が取材・編集する大学広報誌です。
現在、学部在学学生を対象に学生記者を募集しています。



鍵谷投手のドラフト指名会見で取材する学生記者たち(中大ボード前の3人)

- 元新聞記者のプロや先輩の学生記者に、取材方法・原稿の書き方はじめ添削指導を基礎から受けることができます。将来どんなキャリアをめざすにも文章力が重要です！
- 取材を通して、さまざまな人に出会うことができます。出会いの数ほど思い出ができることでしょう。
- 記者活動を通してコミュニケーション能力など「社会人基礎力」を身につけることができます。

お申し込み・お問い合わせ 中央大学広報室『HAKUMON Chuo』 編集担当：久保田茂信
Phone：042-674-2048(直通)
E-mail：skubota@tamajs.chuo-u.ac.jp

編集室

部の改革に悩んでいる指導者がいた。体育会所属の名門チームだ。OB諸氏の発言力は相変わらず強く、学校当局の目は厳しい。熟考のすえ「みんなが自由に使える時間は、朝だと気が付いた」指導者は部員の生活を朝型にがらりと切り替えた▼練習開始は午前6時。5時には起きる。練習終了後に朝食をしっかりとると、9時開始の1限授業に出席できる。教室へ行くと友人ができる。友だちの輪のよさを知り、試験情報も入手。生活リズムがよくなって、部活動は円滑に動いていった。夜更かしはもう体が許さない。早寝が習慣となり、また新たな朝を迎える▼これをわが身に置き換えてみる。つらいし、ねむいし、夜遊びしたい…怠け癖が頭をもたげると、いざやってみると快適だ。季節の変わりようも肌で分かるようになった。なぜもっと早くにしなかったのか、後悔する自分に苦笑いした▼逸話は明治大学サッカー部で実際にあったこと。白門祭のトークショーで中大サッカー部(佐藤健GM)が招いた明大・神川明彦監督の話を引用させていただいた。改革メンバーには欧州で活躍する長友佑都選手(インテルミラノ)がいた。早起きは三文の徳というが、世界に通用する長友ブランドがあると、三文とはいえぐっとありがたみと価値が増す。三文も積もればナガトモとなる。(編集長 久保田茂信)



2012 冬号 NO.229 2012年(平成24年)12月15日発行

発行 中央大学広報室
〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1

編集担当 『HAKUMON Chuo』
☎042-674-2048

◎取材協力

学友会、学生部、学生会、野球部、サッカー部、ボート部、陸上競技部、剣道部、各学部事務室、白門祭実行委員会、ホームカミングデー運営委員会、同実行委員会、入学センターほか(順不同)

◎学生記者から

取材先の皆さま 2012年早春号から冬号まで発行5回、一年間お世話になりました。ありがとうございました。学生記者一同 三島薫、宮寺理子、晝間祐亮、加藤藤香、中野由優季、梶原麗奈、佐武祥子、望月繁樹、田中佑樹、小笠原昂、藤森皓子、齋丸仁志、熊谷百夏、野村有希、渡辺紗希、野崎みゆき、荻原陸、山下緑、石崎春日子、精松あかり、中田実希、田中未来、山口莉奈、鈴木あきほ、福田紗友里、武内優里子、竹田響、今井秀彰、白倉隆之介、関いづみ、矢嶋万莉子(順不同、2012年3月の卒業生を含む)

◎写真提供&協力 中大スポーツ新聞部